

2018年7月2日
環境社会配慮助言委員会委員長 村山 武彦
担当ワーキンググループ主査 久保田 利恵子

Bangladesh 国外国直接投資促進事業
(有償資金協力)
ドラフトファイナルレポートに対する助言

助言案検討の経緯

ワーキンググループ会合

- ・日時：2018年6月18日(月) 14:01~17:33
- ・場所：JICA 本部 (2階 212 会議室)
- ・ワーキンググループ委員：石田委員、久保田委員、谷本委員、林委員
(林委員はメール審議にて参加)
- ・議題：Bangladesh 国外国直接投資促進事業(有償資金協力)ドラフトファイナルレポートについての助言案作成
- ・配布資料：SAPI 報告書(ドラフトファイナルレポート案)、回答表及び当日配布資料
- ・適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン(2010年4月)

全体会合(第92回助言委員会)

- ・日時：2018年7月2日(月) 14:31~16:55
- ・場所：JICA 市ヶ谷ビル(2階大会議室)

上記の会合にて助言を確定した。

助言

全体事項

1. 浚渫及び土砂の埋め立てについては、雨期・乾期におけるそれぞれの作業上の留意点が詳細設計の段階において精査される予定であることをFRに記述すること。
2. 排水処理方法については、他案件で採用されている活性汚泥法以外にも処理効率やコストの観点から、他の処理方法についても検討してFRに記述すること。
3. 非有害廃棄物・有害廃棄物の両方に対して、廃棄物排出量・処理コスト・輸送コスト・受け入れ側の処理容量、処理技術や処理能力を十分考慮した廃棄物処理方法とサイトのオプションについて、FRに記述するとともに、本経済特区から排出される廃棄物の受け入れ先を着工、土地造成が開始するまでに確定させること。

環境配慮（汚染対策、自然環境等）

4. 各入居企業が遵守すべき排水基準並びに工業団地からの排水処理と管理については、IFCのEHSガイドライン及びASEAN諸国における先行事例を検討し、入札準備段階の工業団地の排水処理施設仕様決定までに、国際的基準に合致する適正な基準の設定および先方政府と基準内容について合意形成すること。また、設定基準に基づいた管理・モニタリングの方法をFRに記述すること。
5. 浚渫によるカワイルカへの影響（騒音・照明・汚濁・河床低下等）を最小限に抑える緩和策及びモニタリング計画を策定し、FRに記述すること。

社会配慮（住民移転、生活・生計、文化遺産、景観、少数民族、先住民族、労働環境等）

6. プロジェクトサイトで、漁業を営む人たちへの影響を詳細設計の段階で調査し、緩和策を実施することをFRに記述すること。

以 上